

ノイズキャンセリング  
完全ワイヤレスイヤホン

# TANCHJIM MINO

¥OPEN(直販サイト価格¥7,650/税込)

▶投票 No.062

SPEC ●通信方式: Bluetooth Ver.5.3 ●対応コーデック: SBC, AAC ●ドライバー口径: 10mm ●連続再生時間: 約5時間(ANC ON時/ケース込み31時間) ●質量: 4.6g(イヤホン片耳/実測値)、39.4g(ケース/実測値) ●付属品: イヤーチップ(S/M/L)、充電ケーブル



オリジナル設計のドライバーを搭載

# 音、デザイン、価格 すべてが良バランス!

自社で理想と掲げる「ターゲット・カーブ」の実現のために、オリジナルドライバー「DMT」を開発し、さらに進化を続ける「TANCHJIM(タンジジム)」から完全ワイヤレス「MINO」が登場。音、デザイン、価格のすべてがバランスよくまとまる高コストモデルの魅力を紹介しよう。

文/野村ケンジ  
Kenji Nomura  
写真/阿部良寛

## モニターヘッドホンのような安定した音

新進気鋭のオーディオブランド・タンジジムより、高性能ANC搭載の完全ワイヤレスイヤホン「MINO」が発売された。使いやすいスティック型のイヤホン本体、上蓋をスケルトンデザインにしたケース、お手頃な価格設定など、ライトユーザーを意識したモノづくりが行われている。また機能面も充実しており、最大のトピックは-45dBというANC機能。加えて、Bluetooth 5.3による安定した接続や0.045秒の低遅延、静電式の装着検知機能、デュアル・ビームフォーミングマイク採用による風切り音抑制、IPX4の防滴性能など機能性は高い。

音質に強いこだわりを持つメーカーだけあって、音響設計には手抜きはない。要となるドライバーユニットは、完全ワイヤレスとしてはやや大きめの10mm口径。こちら、振動板素材にベリリウムメッキドームやPU素材のサスペンション部を採用するなど「MINO」専用として新規開発した。そのサウンドは、同社の有線イヤホンと同傾向の纏まりのよい表現が特長。ボーカルなどセンターの距離感が近く実体感が高い。おかげで、男性、女性ともに声の魅力を存分に楽しめる。また、コーデックはSBC/AACのみだが、丁寧なディテール表現なため解像感の不足も感じない。タンジジム独自のターゲットカーブによる調整が行われているが、できのよいモニターヘッドホンを聴いているかのような安定したサウンドに好感が持てる。一見するとカジュアル、けれども真面目な音づくりがなされた、完成度の高い製品だ。

1万円以下でこれはスゴイ!

## -45dBのノイズキャンセリング



本機はフィードバック単体(ノズル内にANCマイクを配置したもの)という珍しいシステムが採用されており、-45dBというハイブリッド(フィードフォワードとフィードバックの併用)並みの高性能と、シングルANC並みの低価格を両立している。

## 独自「DMTドライバー」を採用

DMTとは主にドライバー内部にある音響空間の空気圧制御技術のことで、高感度かつワイドレンジ化を実現しつつ、歪が少ないのが特長。振動板のドームにはベリリウムメッキを施し、エッジ部にはPU(ポリウレタン)を使用している。

